



高蓋小学校

問 森林セラピーへの取り組みは

答 認定に向け積極的に取り組む

Q 深刻化する地球温暖化対策に対する考えは。

A 町長 北海道洞爺湖サミットのメインテーマは、地球環境問題・地球温暖化対策である。自然生態系や人間社会への悪影響を考えると、

地球温暖化対策は極めて重要と認識している。

Q 7月7日をクールアースデー（地球温暖化対策の日）として、ライトダウンの取り組みを。

A 環境衛生課長 七夕のライトダウン

キャンペーンは全国的に取り組まれる。町内でも今後協議し対応する。

Q 本町の豊かな資源は森林である。「森林セラピー基地」「森林セラピーロード」認定へ積極的に。



寄定秀幸議員

A 町長 自分の体験から、森林に入ると精神が落ち着き、発想が豊かになり不思議とひらめきが出る。これが「森林セラピー」の効用だと思っている。関係機関と連携し、健康に着目した幅広い森林の利用に努めるため、「基地」「ロード」認定へ向け、積極的に取り組む。

A 教育長 保護者、校医と連携し対応している。教職員の、アレルギー疾患への認識を深めると共に、常に情報収集に努め正しく理解し、ひとりひとりの児童生徒に適切な対応が出来るよう指導する。



森林セラピー
森林の持つ癒し効果を生かし、健康増進やリハビリに役立てるもの。森林浴療法



楽しいグラウンドゴルフ（仙養・上野地域）

問 食育推進の具体策は

答 地産地消など推進

Q 町内学校での食育を担当しているのは、主に養護教諭や栄養専門員となっているが、栄養教諭の導入は。

A 町長 農業や伝統食文化体験などは、学校間で差があるが、一定の基準を設けて体験させるべきでは。住民向けの食育は講演

会などを通じて、伝統食の意義や現代農法の人体や環境への影響など正しく啓発すべきでは。都市住民との交流を広く全町へ拡大させては。

A 町長 安全な食べ物の生産促進。地産地消の推進。郷土料理や日本型食生活



赤木健二議員

にこだわった食育を進める。有木自治振興会のよう

A 教育長 栄養教諭は現在広島県で10人配置。本年度は

効果検証のため採用を見送っている。栄養士や養護教諭に研修させて当面は対応していく。

小学校では全校に農園がある。昨年、中学校では農業を含むキャリア教育の充実を図った。町外の学校との交流で郷土料理の実習など実施。今後は家庭や地域の支援体制が必要。

Q 三和病院が町立となれば、近い将来産科を開設して町外からの来院を図り、それをステップに若者の定住を図っては。

A 町長 逆手に取る発想で、将来のあり方として参考にしたがいし、指定管理者とも協議したい。

問 限界集落対策は

答 県の施策を精査し取組む

Q 過疎高齢化が進行し、高齢者人口が50%を超える限界集落が、全集落の3割を超え、社会的共同生活が困難になったり、農地の荒廃など生活環境の悪化が進行している。県と町の取り組みは。

A 町長
限界集落対策は、町の存亡にも関わる問題と

認識している。

県は昨年より調査し、本年緊急対策費を計上した。町も今年度該当集落を調査する県の対策を精査し取り組みたい。

Q 本町の重複した交通対策を総合的に見直すため設立した、地域公共交通協議会の基本方針は。

A 町長
住民ニーズの把握をして、現在の財源の範囲内で効率的な運行を行い、町民が誰でも利用できる満足度の高い地域交通対策を目指したい。

Q 町道の障害木の伐採は、基本的には地権者の責任だが、地権者が



佐伯卓師議員

対応できない場合は、地域に任せ支援をするべきでは。

A 町長
町ですべての対応は難しく、地域で出来る路線は地域に任せ、後方支援を検討する。

Q 間伐の遅れた植林地が目立つ。森林対策は間伐を重点に進めるべきだ。

A 町長
ひろしまの森づくり事業など大いに活用してほしい。



そば打ち交流（ながの村）

Q 滞納繰越は回収可能か

小林 貢 議員

A 住民課長

滞納処理に努力をしているが、今後もいろんな方法で回収するように努力して参りたい。

Q 議案の提案に慎重さを

瀬尾征爾 議員

A 町長

もう少し精査して行うべきだと思う。議会軽視の意識はありません。

Q 小規模農業基盤整備事業（かんがい排水）は、農業法人へも補助を

村上克朗 議員

A 産業課長

集落法人や企業の個別経営農家、農業外企業が権限を有する農地に限り補助対象。

Q 「神石高原和牛の里」にある資料館の管理は

A 産業課長

豊満号などの記念品は町で管理する。



女性のつどい（スコラドーム）

少し細かな質問